

Title	日本企業の海外基礎研究所の人材管理とその日本への応用についての一考察
Sub Title	
Author	櫻井勝規(Sakurai, Katsunori) 浅川和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1342号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1342">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1342</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 日本企業の海外基礎研究所の人材管理とその日本への応用についての一考察

日本企業の今後の課題の一つは独創的な技術の開発であり、鍵を握るのは基礎研究と思われるが、その成否は、量的要因よりもむしろ質的要因にあると見てよい。そして、基礎研究所運営のノウ・ハウの豊富な欧米から、そのノウ・ハウを学習するにあたって、近年増加している日本企業の海外基礎研究所は重要な実践であると同時に源泉でもある。そこで、「日本企業の海外基礎研究所の人材管理は他部門や在日の基礎研究所とどのように異なっているか。また、それらはどのように日本の基礎研究所の人材管理に取り入れることが可能であろうか。その様な学習効果と海外の基礎研究所の業績とは両立するのであるだろうか。」というテーマで企業のインタビュー調査を行なった。

その結果、海外の基礎研究所の人材管理は各社とも大きな差があり、それは大きく、海外基礎研究所の自律性を極めて重視する現地自律性重視型と、現地の自律性と本社によるコントロールのバランスを重視するバランス重視型とに分けられ、海外での経営管理の経験、および、国内での基礎研究所運営の経験が充分な企業は当初からバランス重視型による運営で成功を収められる可能性が高いのに対して、これらの経験が不十分な企業は当初は現地自律性重視型で運営し、その後、バランス重視型に移行していった方が成功を収められる可能性が高いと考えられるのではないかという仮説を導出した。さらに、海外基礎研究所の人材管理からの学習については、バランス重視型の運営の方が、現地自律性重視型よりも速やかに学習ができるのではないかという仮説を提唱した。